

第10回 短編恋愛小説「深大寺恋物語」 募集要項

【募集内容】

関東有数の古刹である天台宗別格本山「深大寺」の発祥は、その名前の由来でもある「深沙大王」という神様にまつわる「縁結び」の物語に由来する、と伝えられています。「深大寺」という歴史あるお寺、その門前に位置する数多くの「そば屋」や「お土産屋」、そして「東京都立神代植物公園」をはじめとする、その界隈の「豊かな自然や花と緑」を盛り込んだラブストーリーを募集します！

【応募規定】

- ・ Eメールでの応募を推奨。データは必ずワードもしくは一太郎で作成のこと。(メールに直接記入やPDFは不可) **事務局への持ち込みは「遠慮ください」。(事務局郵便受け投函はOK)**
- ・ A4サイズ1枚400字設定で、空白も含み10枚以内。必ず「横向き書」。
- ・ 原稿用紙を使用する場合はA4サイズ400字詰めの用紙で、清書であること。
- ・ 表紙と原稿は分け、原稿には本文及びページ番号以外一切記載しないこと。(タイトルは原稿には記載せず、表紙のみに記載)
- ・ **作品の表紙は公式HP (<http://novel.chofu.com>) からダウンロードしたものを使用。**
- ・ **表紙をダウンロードできない方は、原稿とは別に手書きの表紙を用意し、表紙には住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、作品のタイトル、この公募を何で知ったか、を記載。**
- ・ **原稿は表紙を除いてページ番号をふる**こと。郵送の場合、原稿は綴じず折らずに送ること。(FAXは不可)
- ・ 一度提出した原稿の修正、並びに規定に合っているか等の問合せは不可。
- ・ 応募点数制限なし。未発表のオリジナル作品に限る。 ※発表済の類似作品が見つかった場合は入賞を取り消す場合もあり。
- ・ **小説執筆の前に必ず添付の井上荒野先生の選評を「一読ください」。**

【応募資格】

【審査員】 村松友視、井上荒野、清原康正

【賞金】 最優秀賞10万円(1編)、審査員特別賞5万円、調布市長賞 など

【応募締切】 2014年7月31日(木) 13時(必着)

【発表】 2014年11月末に開催予定の「深大寺そばまつり」並びに「深大寺恋物語公式HP <http://novel.chofu.com/>」にて

【主催】 深大寺短編恋愛小説実行委員会

【共催】 深大寺そばまつり実行委員会・特定非営利活動法人 ちょうふどとこむ

【協力(予定)】 アカデミー愛とぴあ、深大寺奉賛会、深大寺そば組合、調布タウン誌182、J・COM調布・世田谷、調布エフエム放送株式会社、林建設株式会社

【後援(予定)】 調布市、深大寺、(公社) 調布青年会議所、(公財) 調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市商工会、調布市教育委員会、調布市観光協会、(福) 調布市社会福祉協議会、調布市文化協会、株式会社角川大映スタジオ、日活撮影所、京王電鉄株式会社、京王電鉄バスグループ、小田急バス株式会社

【応募先】 182・0026 東京都調布市小島町2-40-10 CFビル2F (以前と住所が異なります)
(ちょうふどとこむ内) 深大寺短編恋愛小説実行委員会事務局

電話: 042-487-4282 E-Mail: novel@chofu.com

【諸権利】 入賞作品の出版権、上映権、映像化権等の諸権利全ては主催者及び共催者に帰属。また、主催者及び共催者は、全ての応募作品について、その作品をホームページ等で掲載させていただく権利を有するものとします。

【その他】 応募作品の返却はいたしません。

【執筆の前に「」読ください】

第七集、井上荒野先生の選評の抜粋「小説と読み物と」

回を重ねるうち、応募作の質は大まかにいって二方向に分かれてきたと思います。つまり、小説と読み物とに。

私の分類法では、(毎回、「このことを言いますが」、粗があっても、破綻があっても、その作者にしか書くことができないもの、その作者がそれを書く意味を持っているものが、小説です。読み物というのは、すでに世の中に出回っている物語のパターンを、登場人物や設定を変えて(この賞の場合だったら、舞台を深大寺にして)焼き直しただけのもの。安心して読めますが、衝撃も興奮もない。最初の五行を読んで予想した通りの結末になるもの。

私が選びたいのは、言うまでもなく小説のほうなのです。

これから書いてみようという方々への、ひとつの提案ですが、たとえば次のような制約を課してみてもいかがでしょうか。

- 1、初恋の人を登場させない／登場させても良いが、三十年後に深大寺で偶然会わせたりしない。
- 2、恋人、あるいは伴侶を病氣とか事故で死なせない／死なせても良いが、死んだあとでその人と面影が似た人と偶然出会ったりさせない。あるいは、その人が生前遺した手紙か何かを、三十年後に偶然見つけたりさせない。

3、「意地っ張りで男勝りで不器用なワタシ」と「天然なアイツ」の組み合わせを使わない／使っても良いが、この組み合わせは少女漫画で使い古されたパターンであり、よほど突出したものがないと評価は得られない、ということを確認する。

「偶然」は、なるべくなら使うのをやめましょう。使う場合は、それを小説の本筋とからめないことです。

第八集、井上荒野先生の選評の抜粋「あなたがそれを書く意味」

(最終審査をした)候補作十八篇のほとんどが、まるで印象に残らない。ひとつにはタイトルの付け方のいいかげんさ、そしてもうひとつは、どれもが「どこかで読んだことがあるような物語」だったせいだと思います。

小説とも言えないつまらない読み物を読んでいると、「作者たちは、これを書いているとき、いったい面白かったのだろうか?」と思います。そこら辺にいくらでも転がっている筋書きの細部を深大寺向きにちよつと直してみる。そんなものは創作ではなくて漢字の書き取りに近いものです。

なぜ自分はこの物語を書きたいのか。ほかの誰でもなく「自分が」その物語を書かなければならない意味はどこにあるのか。どうかそれを考えてください。小説を書くことと思うなら(ばかばかしいほど当たり前のことですが)小説をたくさん読むことも大切です。その際に、「さくさく読める」ものばかりではなく、ハードルの高い、読むのに多少の努力を要するものにも、チャレンジしてみてください。ハードルを越えたときに、あなた方が知らなかった「面白さ」や「感動」に出会えると思います。たぶん、あなた方が知っているよりも、無数のすばらしい小説が、この世界にはあるのです。そのすばらしさを、どうぞ体験してください。

(今回は)作者にしか書けない一行、作者が自分自身の感性で感じ取った何か。それがひとつでもあった作品を、評価しました。

ただ、ムードに流されて、くどくなっている箇所が幾つか。十行使って書いているところを、五行であらわせないかどうか、考える練習をしてみてください。言葉を連ねるのではなくて、選ぶことです。